

# 2023年度コーチカンファレンス

## 安全・インテグリティパート

### 「インテグリティの追求と安全への取り組み」

講師：齋藤守弘（インテグリティ推進部門 / 安全対策委員長）



**JAPAN RUGBY  
FOOTBALL UNION**

# 安全対策

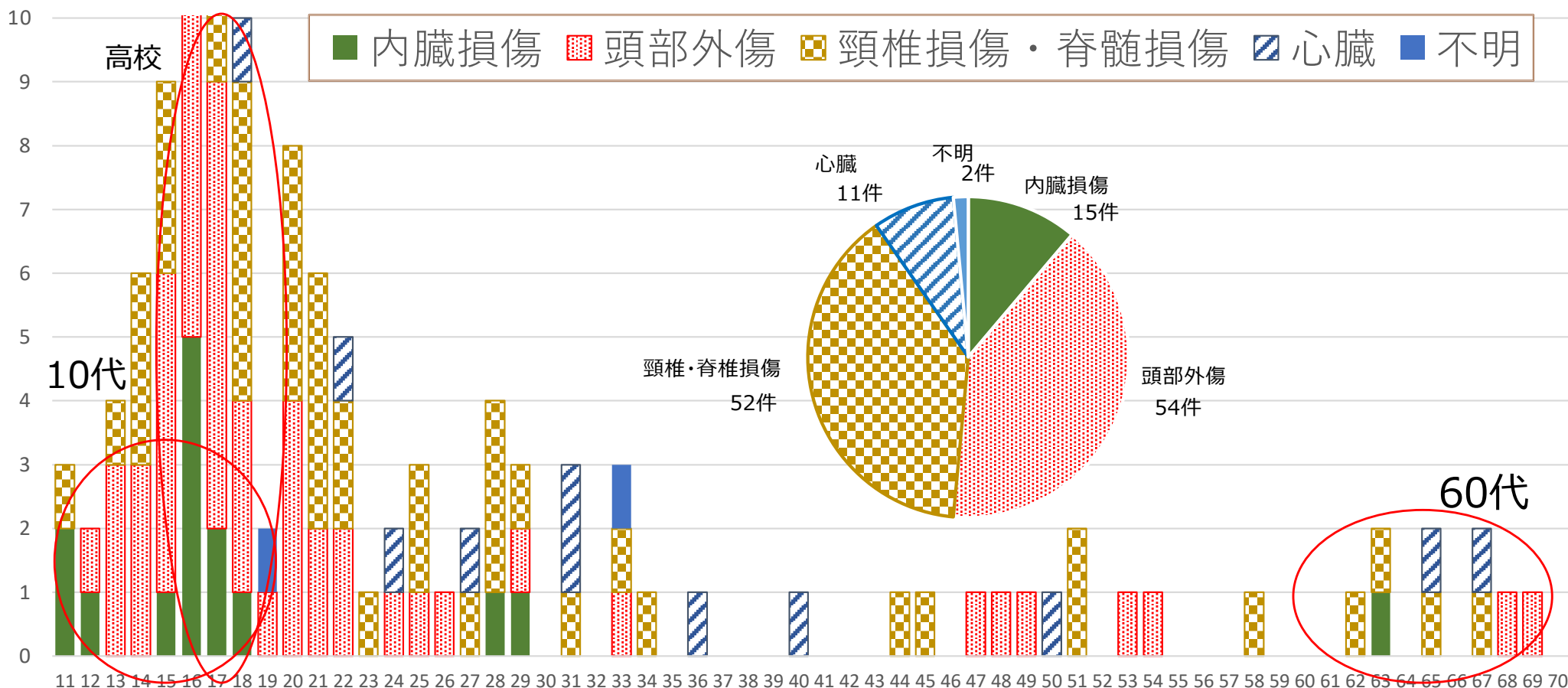


# 重症傷害分析 <年齢別・傷害別>

2016年4月から2023年3月までの重症傷害報告 134件を対象に分析

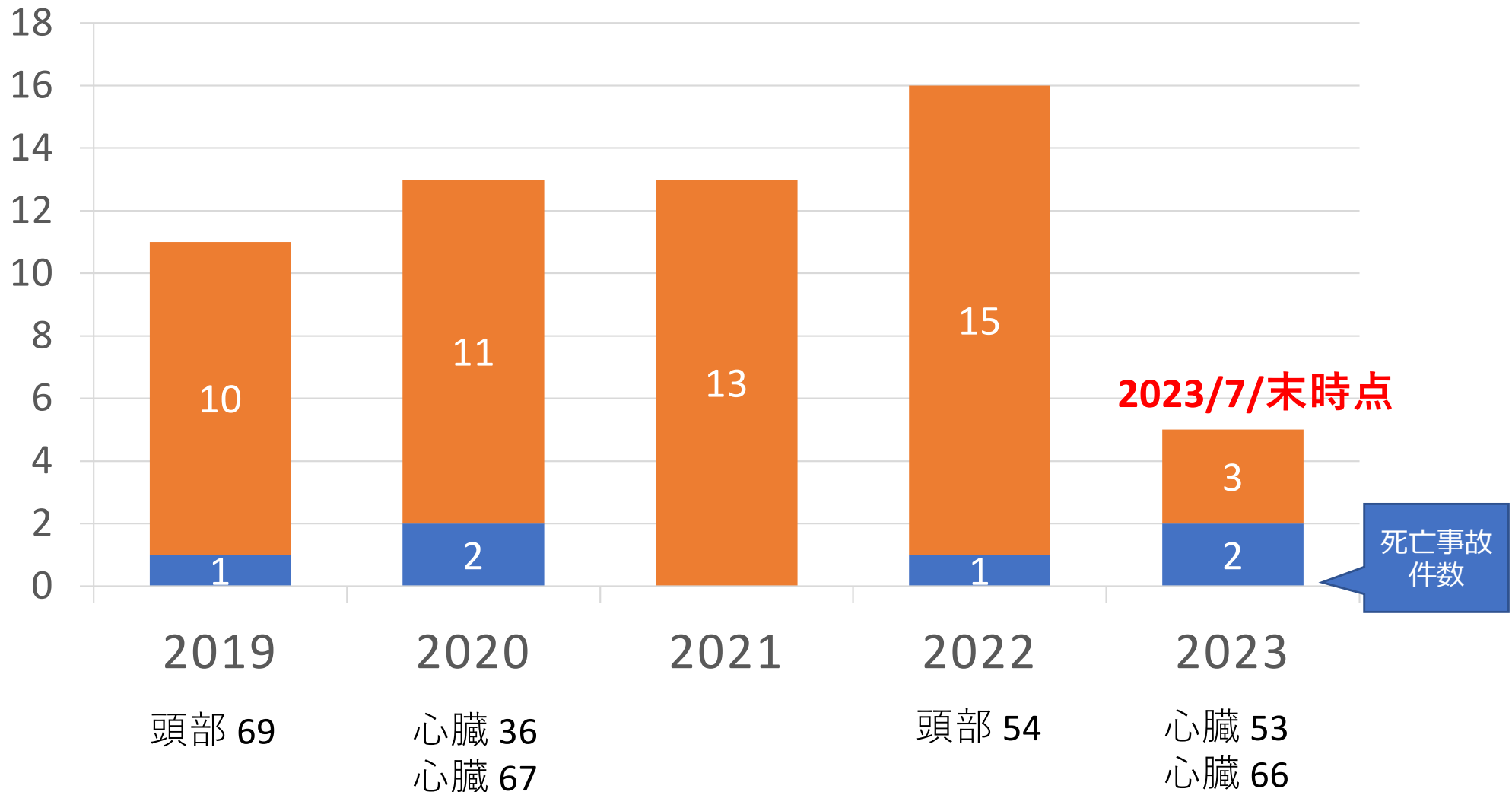
- 高校生での事故は全体の32%
- 内臓損傷15件中12件は10代 (含. 小5男子、高3女子)

※届いた報告書すべてを計上



# 重症事故件数の推移(2019-2023)

死亡事故は2021年度は無かったが、2022・23年度は発生。



# 2023年度安全対策強化のお願い（2023年2月通達発信）

項目	内容(案)
安全重視の意識徹底	<ul style="list-style-type: none"><li>チームとして安全重視の研修や話し合いを実施</li></ul>
メディカル体制の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>必要人数のセーフティアシスタント（SA）の確保</li><li>可能な範囲でチームドクターの配置</li></ul>
傷害発生時のケア	<ul style="list-style-type: none"><li>選手のコンディション管理、既往歴管理</li><li>頭部外傷/内臓損傷への経過観察</li><li>EAPの準備、チーム内の周知徹底</li></ul>
日本ラグビーフットボール協会の制度対応	<ul style="list-style-type: none"><li>日本ラグビーフットボール協会への確実な登録</li><li>重症傷害報告/傷害報告/脳振盪報告の実施</li><li>見舞金制度の活用</li></ul>

# 「安全対策」のためのマニュアル

日本ラグビー協会発行

『**2023年版 ラグビー外傷・障害対応マニュアル**』

300円/冊 販売サイト「JRFUサービスステーション」

無料ダウンロード可

## 主な改訂内容

- ・ **段階的競技復帰（GRTP）プロトコルについて**
- ・ **女性アスリートの安全対策の加筆**  
**（女性アスリートの三主徴、月経に関わる症状等）**





(7月1日更新)

## (通達)タックルの高さに関する試験的ガイドラインの導入

<https://www.rugby-japan.jp/news/51983>

### タックルの高さに関する試験的 ガイドラインの導入について

(公財) 日本ラグビーフットボール協会  
ハイパフォーマンス部門 審判グループ



# ガイドライン

- ・ 胸骨の位置へのタックルはハイタックルでPKとする。
- ・ 最初のコンタクトの位置は胸骨より下であったが、ずり上がって最終的にコンタクトの位置が胸骨になった場合、PKとなる可能性がある。
- ・ 複数でタックルする際は、1<sup>st</sup>タックラー同様に胸骨より下へタックルしなければならない。





# COMMUNITY GAME: LEGAL TACKLE HEIGHT PROPOSAL



THE RISK OF CONCUSSION IS 4.2 TIMES HIGHER WHEN THE TACKLER'S HEAD IS ABOVE THE BALL CARRIER'S STERNUM IN THE TACKLE\*

## BELOW THE STERNUM

- TACKLE THE BELLY
- BELOW THE BALL
- TARGET THE TORSO

\*[SOURCE: DATA FROM 878 HIAS, ONGOING WORLD RUGBY RESEARCH STUDIES, AS IN TUCKER ET AL 2017]



胸骨の位置(赤塗り部分)

# COMMUNITY GAME: LEGAL TACKLE HEIGHT PROPOSAL



THE RISK OF CONCUSSION IS 4.2 TIMES HIGHER WHEN THE TACKLER'S HEAD IS ABOVE THE BALL CARRIER'S STERNUM IN THE TACKLE\*

## HIGHEST RISK ZONE

HEAD-ON-HEAD AND HEAD-ON-SHOULDER

## LOWER RISK ZONE

TACKLER HEAD TO BALL CARRIER TORSO/UPPER BODY

HEAD-TO-HIP AND HEAD-TO-UPPER LEG ARE LOW RISK

## MEDIUM RISK ZONE

HEAD-ON-KNEE HIGHER RISK WITH MEDIUM ZONE

\*[SOURCE: DATA FROM 878 HIAS, ONGOING WORLD RUGBY RESEARCH STUDIES, AS IN TUCKER ET AL 2017]





# ターゲット

プレイヤーの安全を守り、「誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会の実現」を目的とする。



## 対象となるカテゴリー

- ・リーグワンを除く、全てのカテゴリーへの適用  
(ミニ、ジュニア、高校、大学、社会人、クラブ)





**74%**

タックルエリアに起因する  
脳振盪の割合  
タックルの高さを低くすることで、  
両方のプレーヤーを保護する

**約70%**

タックルエリアでの脳振盪の内、  
タックラーに関する割合

**4.2倍**

タックラーの頭が胸骨より上  
にある場合、脳振盪のリスクは高まる

研究によると、タックルの高さを  
低くすることで、脳振盪が大幅に  
軽減されることがわかっている

フランスでの試験的実施の結果、  
頭と頭が衝突するケースが**64%**  
減少し、**23%**脳振盪が減少した





# World Rugby - "Player Welfare"

<https://www.world.rugby/the-game/player-welfare>

 <b>Medical</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Brain Health</li><li>Concussion Guidance</li><li>Covid 19</li><li>Player Load</li></ul>	 <b>Rugby Surfaces</b> <ul style="list-style-type: none"><li>All Surface Information</li><li>Preferred Turf Producers</li><li>Compliant Fields</li><li>Advice for Facilities</li></ul>	 <b>Equipment</b> <ul style="list-style-type: none"><li>All Equipment Information</li><li>Approved Devices</li><li>Reg 12 Approval Process</li><li>Advice for female players</li></ul>	 <b>Player Welfare Guidelines</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Player Welfare Guidelines</li><li>Medical Guidelines</li><li>Participation Guidelines</li></ul>
 <b>Research</b> <ul style="list-style-type: none"><li>All Research</li><li>Applying for Funding</li><li>Research Programme</li></ul>	 <b>Conferences</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Medical Commission Conference</li><li>Player Welfare Symposium</li><li>Transgender Workshop</li></ul>	 <b>Training &amp; Education</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Online Learning</li><li>Face to Face Learning</li><li>Medical Education Equivalence</li></ul>	 <b>Anti Doping</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Keep rugby Clean</li><li>TUEs</li><li>Anti-Doping Education</li></ul>

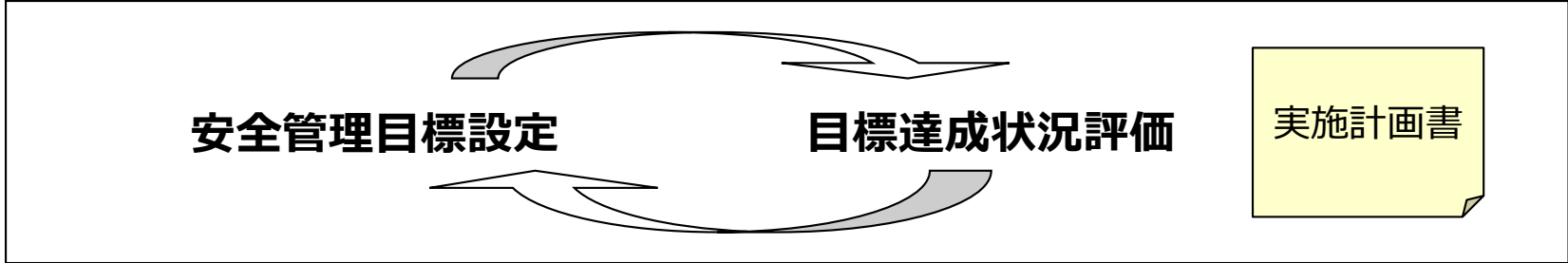
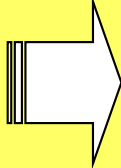
# 脳振盪既往歴の定義（WRによる）

- 脳振盪の既往があるとは次の6項目にあてはまる場合である。

1. 脳振盪の受傷が過去3ヶ月以内にあった
2. 脳振盪の受傷が過去1年間で3回以上あった
3. 脳振盪の受傷がラグビー競技を始めてから5回以上あった
4. 衝撃によって脳振盪の発症閾値が低下した（医師の指摘による）
5. 脳振盪を起こし、心理的な問題を合併した
6. 過去に脳振盪を起こし、回復に時間がかかった（21日以上）

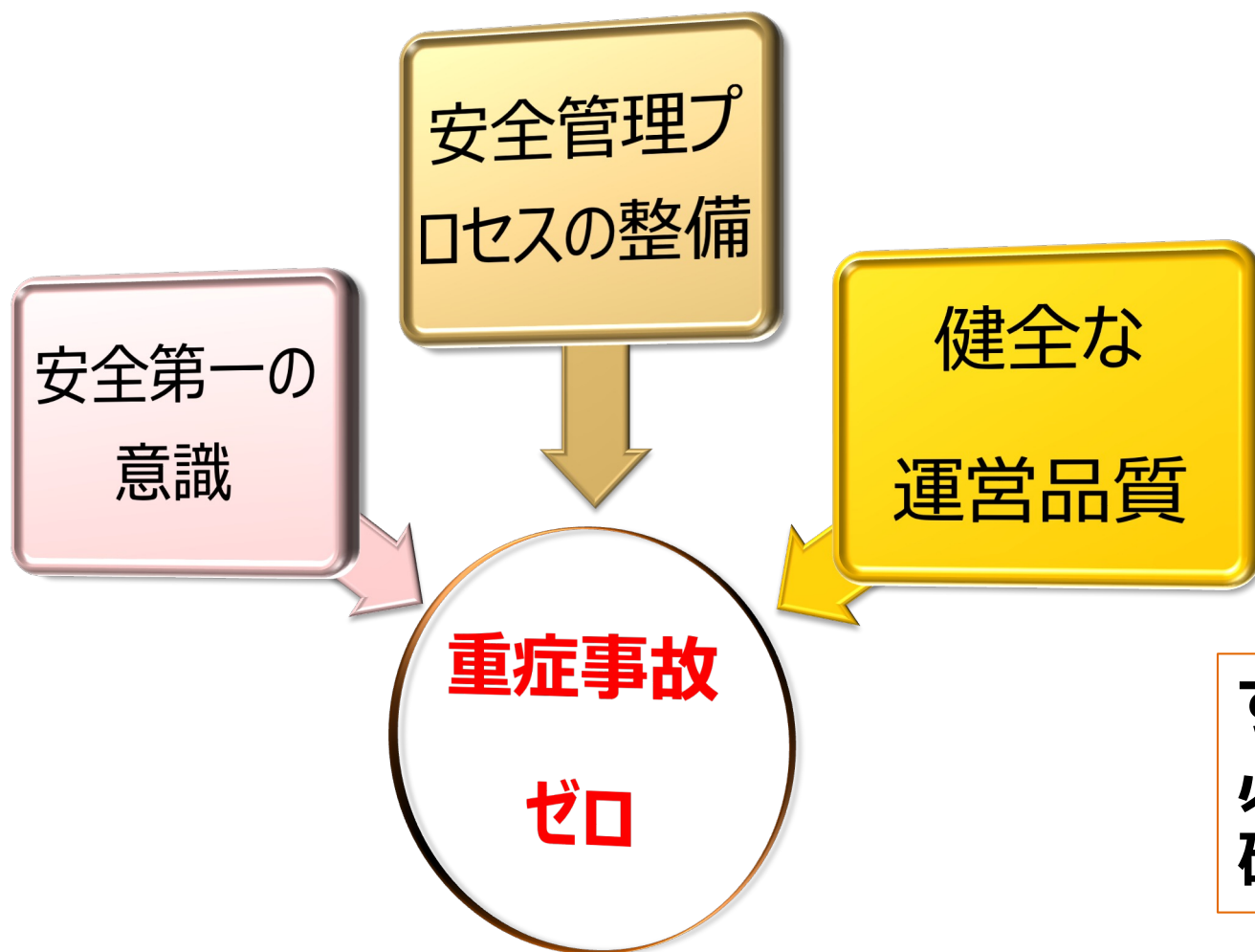
# 『安全管理プロセス』による安全対策の実施

日々の安全管理プロセスにおいて、安全対策の徹底を図ってください。

<b>計画・評価</b>	 <p>安全管理目標設定</p> <p>目標達成状況評価</p> <p>実施計画書</p>
<b>管理</b>	<p><b>情報管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 日誌</li><li>- 名簿</li><li>- 故障情報</li><li>- 協会登録情報</li></ul> <p><b>保険管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 加入状況</li><li>- 執行状況</li></ul> <p><b>体制管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 責任者</li><li>- 専門スタッフ</li></ul> <p><b>競技管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 安全なプレー</li><li>- ルール</li><li>- 交代・入替</li><li>- 自然対応</li></ul> <p><b>資料管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 教材/VIDEO</li><li>- 各種配布物/通達</li><li>- 各種統計</li></ul>
<b>予防</b>	<p><b>健康診断</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- メディカルチェック</li><li>- 日次チェック</li></ul> <p><b>トレーニング</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- スキル</li><li>- フィットネス</li></ul> <p><b>安全教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- スポーツ医学</li><li>- 栄養</li><li>- メンタリティ</li></ul> <p><b>装備装着</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- テーピング</li><li>- ハッドキャップ</li><li>- マウスガード</li></ul> <p><b>環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 施設</li><li>- 用具</li><li>- EAP</li></ul>
<b>事故対応</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- 試合</li><li>- 練習</li><li>- その他</li></ul>	<p><b>発生時対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 初期対応</li><li>- 救急連絡</li></ul>  <p><b>発生後対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 連絡/報告 (関係者, 協会)</li><li>- 記録</li><li>- 保険請求</li></ul>

# 安全に管理されているラグビーの実現に向けて

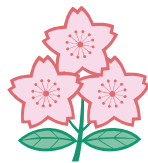
安全管理のためのプロセスの整備と、それを支えるメンバーの高い意識と、チームの高い運営品質が安全対策の向上につながる。



すべきことを明確にして、必要な体制を整えて、確実に実践する。



# インテグリティの追求



**JAPAN RUGBY  
FOOTBALL UNION**

# さらなる「インテグリティ追求」へ

インテグリティ追求

インテグリティを追求するために、「ラグビー憲章」をあらためて強調していくことを決定。

ラグビーの価値を高める5つの要素が「ラグビー憲章」の中で述べられています。ひとつひとつがとても重要な意味を持っていますが、インテグリティは、すべての土台になる基本の姿勢・精神と言えます。

- **品位 INTEGRITY**
- **情熱 PASSION**
- **結束 SOLIDARITY**
- **規律 DISCIPLINE**
- **尊重 RESPECT**

競技規則 Rugby Union

## はじめに

単なる娯楽としてスタートしたラグビーというスポーツは、世界的なネットワークを誇るゲームへと変容を遂げ、巨大なスタジアムが建設され、複雑な運営組織が作り出され、入り組んだ戦略が構築されてきた。万人の強い興味と関心を引く活動がどれもそうであるように、ラグビーフットボールには多くの特徴があり、いろいろな側面がある。

ラグビーは、男性にも女性にも、男の子にも女の子にも、世界中でプレーされている。6歳から60歳を超える人まで、850万人以上の人々が定期的にラグビーのプレーに参加をしている。ラグビーには様々な種類のスキルや身体的要件が求められるが、そのことが、あらゆる体形、体格、そして、能力を持つ人に参加する機会を与えているのである。

ゲームをプレーすることとその補助的支援とは別に、ラグビーには、

持できるようにすることにある。

この憲章は、ラグビーというスポーツをプレーし、指導し、競技規則を作り、適用する際の基本原則を網羅している。この憲章は、競技規則とともに欠かすことのできない重要なものであり、すべてのレベルでプレーする人たちのための基準を示すものである。

品位 (INTEGRITY)  
情熱 (PASSION)  
結束 (SOLIDARITY)  
規律 (DISCIPLINE)  
尊重 (RESPECT)

**ラグビー憲章は競技規則に記載**

ラグビーに関わる人々(選手、指導者、観客、選手の家族、協会関係者など)に、ラグビーの場だけでなく日常生活や社会生活の場において、インテグリティという言葉が意味するところの「品位」「高潔さ」「健全性」を実現するための行動が求められます。

# ラグビー憲章HPの提供



ラグビー憲章

はじめに  
～ラグビー憲章を考える～

ラグビー憲章とは？

まとめ

For No Side  
～すべてはNo Sideのために～

はじめに  
～ラグビー憲章を考える～

ラグビーの5つのコアバリュー

品位 Integrity	情熱 Passion	結束 Solidarity	規律 Discipline	尊重 Respect
-----------------	---------------	------------------	------------------	---------------

ラグビー憲章は、国際競技連盟であるワールドラグビーが発行している「競技規則」の冒頭に記載されています。これは、ラグビー憲章が競技規則の一部であり、最も重要であり、最初に伝えたいことであることを意味しています。

競技規則は改定され、チームによって戦術はその都度変わります。しかし、ラグビー憲章は極めて普遍的なものです。ラグビー憲章は、所属するチームが変わっても、選手、指導者、スタッフなど立場が変わっても、変わることのない、共通の価値観です。

日本ラグビーフットボール協会のHPに、ラグビー憲章を紹介・説明するページを開設

動画も参照ください。



<https://www.youtube.com/watch?v=seMomtaN2Ak&t=41s>



品位  
Integrity

相手への礼儀や節度、人徳、気高さにも富むさまは、ラグビーに関わる全ての人、競技全体の基盤を成すものです。

© 2021 Mike Lee for Rugby

# インテグリティを追求するうえで問題となる15の行動

- ① 違法薬物（大麻等違法薬物）
- ② ドーピング、パラ・ドーピング
- ③ 暴力行為（飲酒を伴う不行跡等）
- ④ ハラスメント（パワハラ、セクハラ、アルハラ、モラハラ等）
- ⑤ 違法賭博（違法カジノ等）
- ⑥ 反社会的勢力との関わり
- ⑦ 差別（人種差別、性差別等）
- ⑧ 試合結果の不正操作
- ⑨ SNSの不用意/不適切な利用
- ⑩ 不適切な経理処理
- ⑪ 私的な利益追求（横領等）
- ⑫ 交通違反（飲酒運転等）
- ⑬ 性犯罪
- ⑭ その他の各種法令違反
- ⑮ ラグビーの価値を下げるすべての行動



2019年に4人の逮捕者を出した「薬物問題」は引き続き日本ラグビーにとって大きな課題となっているが、今年度の逮捕事案の発生につき、あらためて徹底した対応が求められている。

また、ほとんどのカテゴリーで発生していると考えられる「ハラスメント・体罰問題」への対応が必須となるが、「暴力行為(特に飲酒時)」「SNSの不適切な利用」、「不適切な経理処理」などにも注意が必要である。



# 2022年度におけるコンプライアンス問題発生状況

- **2018年から違反事案、通報・相談件数が増加傾向**
- **新型コロナウイルスからのラグビー活動再開に伴い、相談件数が急増中**
- **ラグビー活動と並行し、インテグリティ推進の取り組み強化が大きな課題**

## 【2022年度の相談事例】

問題行動	相談内容
ハラスメント (パワハラ、セクハラ等)	・暴言 ※指導者やレフリーなど複数発生
暴力行為	・頭部を殴打 ・胸ぐらをつかむ
その他	・不適切なチーム運営 ・不適切な個人情報管理 ・部員の不祥事（盗難、盗撮） ・入部拒否

2023年4月

## 日本スポーツ協会「NO!スポハラ」活動

<https://www.japan-sports.or.jp/spohara/>

### 『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。



「スポハラ」が起きないことを目指すだけでなく、「誰もが安全・安心にスポーツを楽しめる社会を作る」ための活動です。

そのために、スポーツに関わるみんなが、「スポハラ」はあってはならないもの、ダメなもの「NO! スポハラ」という価値観をもてるようになることを目指します。

根絶宣言から10年が経過した2023年度を「NO! スポハラ」活動を開始する年と位置付け、「スポハラ」について関心をもってもらう、知ってもらう、学んでもらう、そして、防止に向けた行動ができるようになってもらうために必要な情報発信やイベントを行います。



# JRFUインテグリティ追求ホームページ

登録チームがインテグリティ追求に取り組めるよう、学習情報や関連資料をまとめています。

学習資料：Eラーニング、デジタルブック、動画教材

関連情報：2022年度コンプライアンスアンケート結果、過去の通達、  
関係省庁・関係団体の情報



<https://www.rugby-japan.jp/jrfu/integrity#integrity-learning>



# インテグリティ相談窓口活用のお願い

- 「インテグリティ相談窓口」を2018年4月に設置
- 暴力行為等に関する相談に対し、外部弁護士が対応
- **都道府県協会ホームページにバナー貼付を協力依頼（本年6月）**
- 自己浄化・自己修復の仕組みであり、適切な活用をお願いしたい

## 日本協会ホームページ



[https://www.rugby-japan.jp/support\\_center/](https://www.rugby-japan.jp/support_center/)



# 2023年6月7日 コンプライアンスの通達

2023年6月7日「コンプライアンス遵守」徹底に関する通達を発出  
<https://www.rugby-japan.jp/news/51980>

登録チームに以下の3点をお願い

1. 運営にあたり「安全の実現」とともに「インテグリティの追求」を最重要事項として取り組むこと。
2. 本通達の別紙として添付した各種資料をチーム内で共有すること。日本協会が提供する「安全・インテグリティ推進講習会」や「セーフガーディング研修」（2023年度実施予定）など、インテグリティ及びコンプライアンスに関する研修に積極的に取り組みこと。
3. コンプライアンスの問題が発生した場合に適切に対応すること。都道府県協会に報告・相談を行うこと。（含. 日本協会が提供する「インテグリティ相談窓口」の周知と利用）

【別紙資料】

2022年度処分・参考情報、**コンプライアンスアンケート結果**、関係機関の取組み

# 2022年度 コンプライアンスアンケート 【保護者向け】

2023年5月

日本ラグビーフットボール協会



# 2022年度コンプライアンスアンケート

【期間】 2023年2月～3月（約3週間）

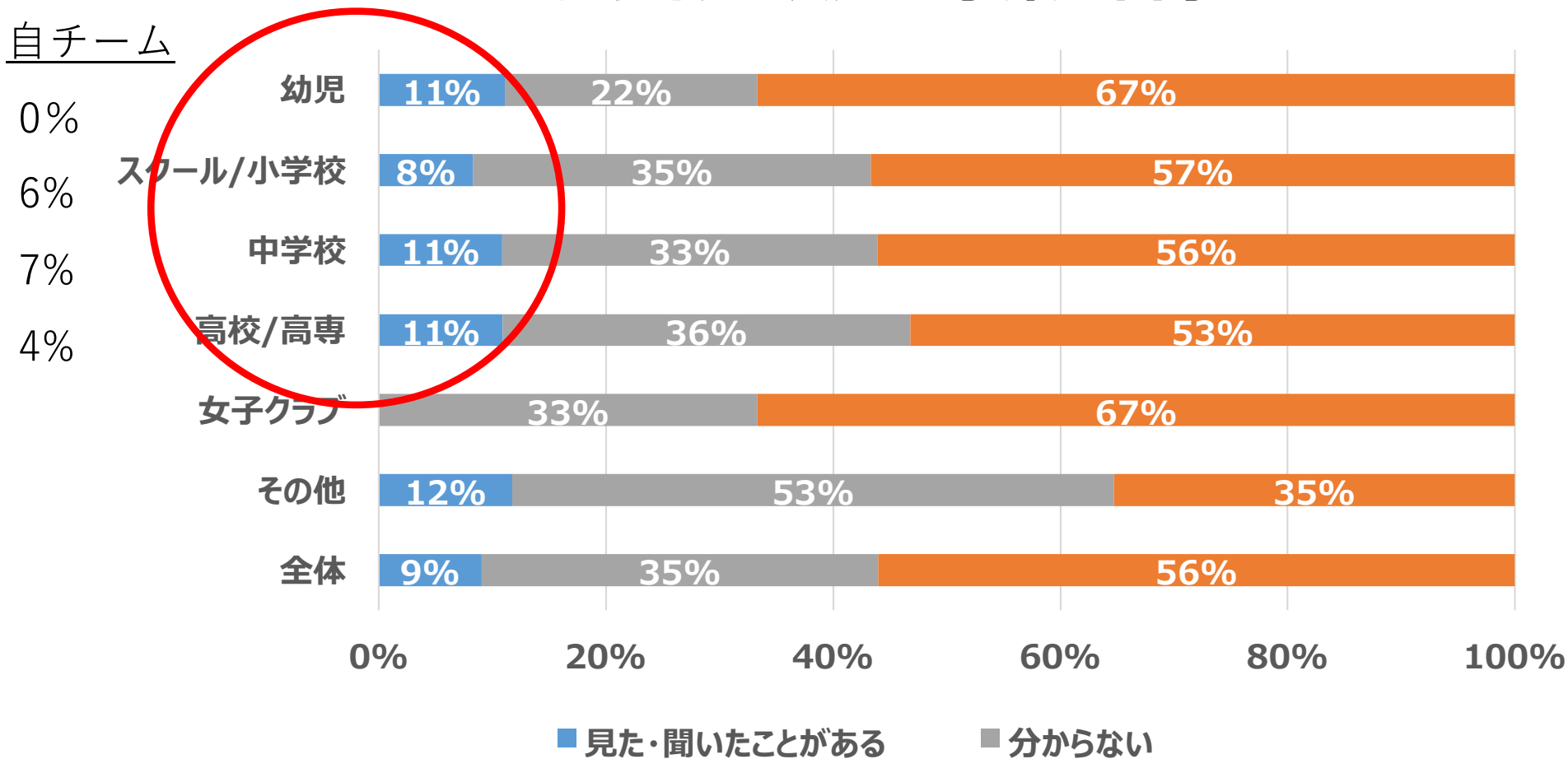
【対象】 登録チームの管理者、選手（未成年）の保護者

【回答】 登録チーム：810件（回答率30%）、保護者：3,197件

質問		チーム管理者	選手保護者
自チーム	違反事案を見た・聞いた	2%	6%
	事案内容	1位：SNS 2位：ハラスメント 3位：暴力行為	1位：ハラスメント 2位：暴力行為 3位：差別
他チーム	違反事案を見た・聞いた	4%	9%
	事案内容	1位：ハラスメント 2位：暴力行為 2位：SNS	1位：ハラスメント 2位：暴力行為 3位：差別
日本協会のインテグリティ相談窓口		知ってる：71% 知らない：29%	知ってる：10% 知らない：90%

# 他チームでコンプライアンス違反事案を見たことがあるか

## コンプライアンス違反事案の目撃



・所属チームでの目撃情報よりも、全体的に割合が高い。

## 参考) コンプライアンスアンケートの保護者のコメント

### <選手への暴言・不適切指導>

- 監督が試合中に選手をどなりつける。叱咤激励の域を超えており、選手も萎縮してしまうし、保護者として観戦していたがすごく嫌な気分になった。
- 中学生で、試験前に練習を休むのは言語道断だ！と言われると聞いています。学業優先にしてはいけないのでしょうか？
- コーチからプレイ面を罵倒されるだけでなく『ぶた』などと外見面や人間性を否定するような発言がありました。

### <厳しさは時には必要>

- 子ども、指導者、保護者の信頼関係のもと、ある程度の厳しい指導も時には必要で、社会に出た時に子ども達の良い経験になると思います。
- 暴力や暴言は困りますが、メリハリをつけるためにももう少し厳しく接してもらえたら良いのかなと思っています。



## 【参考資料】JRFU「セーフガーディング」

### 【通達】「セーフガーディング」の取り組みについて（2022年12月7日）

<https://www.rugby-japan.jp/news/51695>

日本ラグビーフットボール協会に登録しているすべてのチームに対し、チーム内のセーフガーディング対応のために必要な体制、プロセス等の整備をお願いします。セーフガーディングは子どもたちを守るためだけのものではなく、チーム内でのハラスメント・虐待・いじめ・差別の発生を防ぐことと、発生した場合に適切に対応することを目的としています。その観点より、以下の3点への取り組みをお願いします。

- セーフガーディングに取り組む責任者の任命/チームとしてのルール作り
- 問題発生に対応する相談窓口や解決の手段の提供
- 問題発生の未然防止/再発防止のための研修の実施

#### 管理

- セーフガーディング推進の仕組みづくり
- 現状モニタリング/評価

#### 相談窓口/事案対応

- 相談窓口の提供
- 事案への対応の体制

#### 研修

- チーム管理者向け研修
- チーム内向け研修

# 【参考資料】WR Eラーニング「子どものコーチング」

## ワールドラグビーが提供している指導者向けのEラーニング

<https://passport.world.rugby/ja/%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%B3%E3%82%B0/%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%AE%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%B3%E3%82%B0/>

WORLD RUGBY PASSPORT コーチング > 特定項目 (ストランド) > WORLD RUGBY 日本語 (ja) 〻

子どものコーチング

- ワールドラグビー・バリュー
- 子どものコーチングー基本編
- ワールドラグビーLTPD (長期的プレーヤー強化) モデル
- 実践
- 参考文献
- その他の参考文献


## 子どものコーチング

優れたコーチは、プレーヤーの技術、戦術、精神、動き、フィジカル、ライフスタイルにおける能力を伸ばすことができます。この教材は、そういったことができるようになるためのガイダンスを提供するものです。

幼い子どもたちにラグビーを教え、彼らのスキルを伸ばすことは、どんなコーチ、教師、そして、親（保護者）にとっても非常に満足度の高い体験になるでしょう。すべての子どもたちが、安全で安心できる環境の中で自分の可能性を最大限に発揮できるよう、適切な学びの環境を整えることは非常に重要です。若年層のプレーヤーは、ラグビーの未来を守ってくれる存在であり、ラグビーの伝統を受け継ぐ次世代のプレーヤー、ファン、スタッフ、あるいはボランティアの世代となります。

そのため、ラグビーにおいてだけプレーヤーを育成するだけでなく、ラグビーを通じての育成しようとするのが極めて重要です。つまり、コーチングに包括的なアプローチを取り入れることで、より優れたラグビープレーヤーを育成するだけでなく、より優れた人間を育てることができるのです。

次へ »



## 参考情報) 日本スポーツ協会のハラスメント防止動画

日本スポーツ協会では、指導者、競技者、支援者等、より多くの方々がスポーツ現場におけるハラスメントを理解し、スポーツ現場からハラスメントを根絶することを目的にハラスメント防止動画を制作。

<https://www.japan-sports.or.jp/women/tabid1331.html>



### 【内容】

ch1.ハラスメントの考え方

ch2.暴力

ch3.暴言

ch4.セクシュアルハラスメント\_ジェンダーハラスメント

ch5.パワーハラスメント

ch6.差別的な対応

ch7.性的マイノリティを取り巻く問題

ch8.ハラスメント防止のために

ch.1 ハラスメントの考え方



ch.2 暴力



ch.3 暴言



ch.4 セクシュアルハラスメント\_ジェンダーハラスメント



# 日本スポーツ協会「グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブック」

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1402.html>

## ワークブック

ケーススタディから考える

グッドコーチング

グッドプレーヤーのさらなる育成をめざして

# Workbook

**SPORT**  
JSPO OFFICIAL LICENSE

## 動画

▼グッドコーチを目指して～不適切な行為をしないために～ (約6分)



▼ケーススタディ①・プレーヤーのミスに対するコーチング (約10分)



▼ケーススタディ②・保護者との関係構築 (約9分)



▼ケーススタディ③・フェアプレー (約9分)



▼ケーススタディ④・プレー以外の行動等に対する対応 (約11分)



▼ケーススタディ⑤・セクシュアル・ハラスメント (約12分)





インテグリティ追求

どちらも日本ラグビーフットボール協会HPよりダウンロード可能

## コンプライアンスの学習資料

スポーツ団体のための  
コンプライアンス・ハンドブック2018



平成29年度スポーツ庁スポーツ界コンプライアンス強化事業  
「スポーツ団体のためのコンプライアンス・ハンドブック2018」

[https://rugby.dweblink.jp/imaghttps://www.mext.go.jp/sports/content/1404855\\_1.pdf](https://rugby.dweblink.jp/imaghttps://www.mext.go.jp/sports/content/1404855_1.pdf)



日本財団パラリンピックサポートセンター  
『マンガで学ぶスポーツコンプライアンス

～アスリートが知っておくべき大切なコト～』

<https://www.parasapo.tokyo/topics/1860>



# スポーツ団体ガバナンスコード

スポーツの価値を毀損しかねない不祥事の発生を防ぎ、  
スポーツの価値を一層高めていくため、**2019年に制定**

## 中央競技団体

自己説明の実施と公表（毎年・**義務**）

適合性審査（4年に一度、**義務**）

## 一般スポーツ団体

自己説明の実施と公表（**任意**）

不適合になると公表され、補助金が減額に

### ガバナンスコード初の審査報告 1団体不適合、円卓会議

2021/6/30 20:28

スポーツ | その他



スポーツ庁や日本オリンピック委員会（JOC）など5者による円卓会議が30日に開かれ、国が策定した競技団体の運営指針「ガバナンスコード」に基づき、JOC、日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会が実施した審査結果が報告された。初の審査となった2020年度は28団体が対象となり、日本障害者セーリング協会のみが「不適合」だった。

[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop10/list/detail/1420888.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop10/list/detail/1420888.htm)

# 指導者として考えてほしいこと

- 自らを管理すること(自律すること)
- ルールを守ること、ルールを作ること
- 問題を感じる感性を持つこと
- 問題発生に対し自己浄化を個人/組織で果たすこと

問題を成長のきっかけとする

# 「インテグリティ追求」への取り組み

ラグビー憲章を大切に、「コンプライアンス遵守」に  
取り組み、「インテグリティの追求」によって、ラグビー  
の価値を高めてください。

